

(9) 2012年(平成24年)1月8日 日曜日

潮流



新年なので地に足を着けた話をしなければと思ひ、拙いながら初夢話を聞いていただきたい。鳥取県全体の人口減少を食い止め、中山間地に活力を吹き込む『鳥取・年寄り・パラダイス』計画である。略す必要はないけれど、「T・T・P」なのだ。

NPO未来地域マネジャー

光森 明

日本海新聞は、昨年度行政マンの習性で悠長にの豊富さ、そして適当なる。最大の弱点である冬の社説において鳥取県のやっていても事は成らな距離を置いての人付き合場の寒さには間伐材を人口減少が危機的状況にい。そこで恥ずかしながの巧みな人情風土ゆえった薪ストーブが居間にあり、抜本的な施策立案ら「T・T・P」である。である。設置されて、赤々と燃えと実施とを早急に行う必鳥取県を『お年寄りの楽 楽園の候補地は中山間地、限界集落と呼ばれててきているという具合なの要性を再三にわたって指 團県』に塗り替えてしまの場所とし、東部、中 所有ではなく、賃貸の摘してきたが、寡聞にしうのだ。考えの基本には生産年 部、西部それぞれに、ま 通年居住でも別荘使いでかどうか、県市町村い

「T・T・P」『鳥取・年寄り・パラダイス』計画

ずれにも正面突破策を講 齢人口増加を期待しな ず拠点施設を立ち上げ、も問題はなく、最期の看 じた気配は無いし、する い、つまりは現在の移住 徐々に拡大していく。い 取りまでを運営母体の市 空気も感じられなかつ 定住策の抜本的転換であ ずれも千所帯収容規模の 町村が責任を持って行っ だ。 移住定住策に注ぎ込 管理し易いメゾネットタ という契約内容の住居施 想定されている20年後の まだ猶予の期間内だろ まれてる事業資金、ま イプの集合住宅で、中 設備構想である。細かな事 うとの認識なのかも知れ たほとんど一過性に終わ の客家住居のごとく環状 は知恵者に計画してもら ないが、伏流水も放置し っている祭りの資金な 型にする。中心部には住 うとして、この初夢のミ ソは、移り住んだお年寄 りの体力、知力、経験か り組む声を上げてはくれ におくと山を砕くよう ど全てを高齢者住居建設 民のための多種多様な集 りの知識力を鳥取県のた んに、ツケはある日一挙に に充て、完璧な楽園を創 いや祭り事が行われる場 け入れのために再生され り寄せ、県市町村力を りあげるのである。夢の 所が備わり、周囲には受 らぬに打ち砕くのであ 根拠は鳥取県の自然環 境、海産農産物など食材 た休耕田畑が広がって いる。見栄えの良い施策を

(湯梨浜町)

T・T・Pは単なるリ

ゾート計画ではなく、お

年寄り力再活用計画で

もあって、鳥取県にとっ

てぬれ手に粟なのは、住

宅環境と向後の憂いを取

り除いてあげるだけで、

さまざまな職種のプロで

あった人々からため込ん

できたモノを吐き出して

もらえらることにある。ど